

CSRレポート 2023

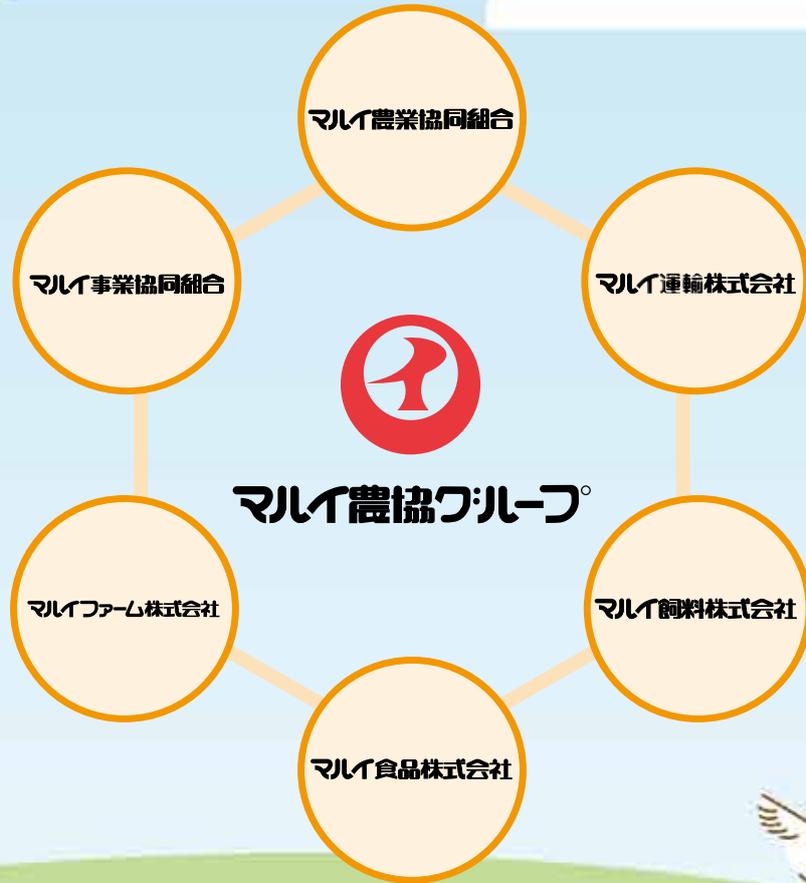
マルイ食品の社会的責任活動報告
- 2022年度の報告 -





マルイ農協のはじまりは、1939年に8人の情熱的な養鶏農家で設立された西出水養鶏組合です。1957年には出水養鶏農協となり、1984年にマルイ農協と呼称を変え、今日を迎えています。マルイの原点は自前の思想です。

自分たちでヒナや飼料を造ること。自分たちで生産から処理加工、そして物流まで行なうこと。この自前の思想がやがて情報部門や環境保全型のエコロジー産業までを含めた大きな総合体をこの九州の西海岸に生み出しました。



マルイ農協
 マルイ食品
 マルイ食品鶏卵企画販売課
 マルイ食品出水GCPセンター
 マルイ食品鶏肉企画販売課
 マルイ食品野田工場
 マルイ食品野田第2工場
 マルイ食品調味料工場
 マルイ食品加工食品開発課
 マルイ食品加工MD企画課
 マルイ食品加工食品品質保証課
 マルイ食品商品調達課
 マルイ食品高尾野工場
 マルイ食品米ノ津工場
 マルイ食品冷蔵倉庫
 マルイ食品出水営業所
 マルイファーム
 マルイファーム雨掛種鶏場
 マルイファームニケ月種鶏場
 マルイファーム大野原育すう場
 マルイファーム清水育すう場
 マルイファーム高田育すう場
 マルイファーム上場育すう場
 マルイファーム出水工場
 マルイファーム水林バイオマス工場
 マルイ運輸
 マルイ運輸ふれあいSS
 マルイ飼料
 マルイ飼料米ノ津サイロ

マルイ食品加古川営業所
マルイ食品京都営業所
マルイ食品北摂営業所
マルイ運輸関西営業所
マルイ食品堺営業所
マルイ食品鶏卵関西営業課
マルイ食品中部近畿加工食品販売課
マルイ食品鶏肉販売推進課

マルイ運輸九州営業所
マルイ食品西日本加工食品販売課
マルイ食品熊本営業所
マルイ食品しらぬい工場
マルイファーム水俣工場
マルイ食品東日本加工食品販売課
マルイ食品宮崎営業所

事業紹介

マルイ食品の鶏卵・鶏肉・加工食品の原点は、自分たちの生産物は最後まで自分たちで責任を持って消費者にお届けするという思想です。

ひなの生産、飼料の製造、鶏卵・鶏肉の生産から処理加工、販売、物流、環境保全型エコロジー産業までを含めた養鶏のインテグレーターとして、お客様に安全で安心できる商品をお届けしています。

キューブエッグ (洗卵、殺菌、選別、パッキング)



処理場 (中抜き、食鳥検査、大ぼらし、カット、パッキング)



加工工場 (原料前処理・調味・加工・パッキング)



CONTENTS

- トップ方針挨拶…………… P4
- 食品安全方針…………… P6
- 環境方針…………… P10
- ・地域貢献について…………… P12
- ・健全な職場環境の維持・推進について…………… P13
- 行動指針…………… P14
- 会社概要…………… P15

トップ方針挨拶

私どもマルイ農協グループは、1957年創立の「出水養鶏農業協同組合」を源流とする養鶏インテグレーターであり、鶏卵・鶏肉の生産農家による農協組織の親会社と、ひな生産、飼料製造、生産物の処理・加工・販売・物流、肥料製造等の株式会社にて構成されます。

設立以来60余年、「トリの応用でメリットをつくり、社会に奉仕する」集団でありたいとの理念を掲げ、設立当初から顧客の皆様、近隣地域にお住まいの方々、行政関係の方々、お取引業者様等、多様なステークホルダーとの良好な関係作りとともに、組合員農場の公害対策、飼料製造における飼料米の活用や有機肥料の製造等、環境リサイクルを意識した事業運営を図ってまいりました。

世界ではSDGsが企業の新たな国際基準となりつつありますが、養鶏インテグレーターとして循環型社会を確実にするために、これからもみなさまのお力をお借りしながら持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

マルイ農協グループ
代表 高松 信吾





マルイ食品は、鶏卵部門では『まあーるい幸せ、マルイのたまご』鶏肉部門では『おいしさ、いいとこどり！南国元気鶏』加工食品部門では『食卓と笑顔のまん中に』と、各部門でのキャッチフレーズを定めて、消費者の皆様常に「安心・安全」な商品をお届けする事を第一に活動しています。

そのための品質保証活動として、各工場におけるISOやHACCP、FSSCの取得と運用を進め、品質管理部を中心に、衛生管理やお申し出低減に努めております。消費者の皆様から寄せられる様々なご意見、ご要望、ご叱責を糧に、日々真摯に取り組んでおります。

また弊社は、鹿児島県出水市に本拠を置く養鶏専門農協のマルイ農協を母体とする地場企業であり、設立以来、常に地元との繋がりや地域環境への配慮を意識し、活動してまいりました。養鶏組合員、従業員も地域住民の一員であり、昨今のSDGs活動もこうした日頃意識している事のいわば拡大版として取組みを強めているところです。無論SDGsの射程は、世界規模での環境保全や貧困の撲滅といった大きなものですが、我々なりに身の丈に合った、我々ならではの活動に取り組んでまいります。

マルイ食品株式会社

代表取締役社長 梶 操



食品安全方針

私たちマルイ食品株式会社は、グループの強みである生産から販売まで一貫したシステムで人間力と現場力を根本に改善・維持する力を持って、安心・安全・信頼を共有・実践していくことで、お客様の満足度向上や信頼構築を図ってまいります。



食品安全方針

1. お客様へ「安心・安全・おいしい」をお届けするために、原材料の調達から食卓まで、フードチェーン全体の品質保証の仕組みを構築します。
2. 「食品安全目標」を設定し、安全な製品造りを継続的に追求します。
3. 法律や社会のルールとお客様との約束ごとを守ります。
4. お客様のご意見に耳を傾け、内部・外部のコミュニケーションを密におこないます。
5. 定期的なマネジメントレビューをおこない、食品安全マネジメントシステムの維持・改善を図ります。
6. 安心・安全な製品をお客様に提供できるように、知識や技術の習得・向上に努めてまいります。

商品検査の取組み

安全で確かな品質の商品をお届けするためにマルイ食品で生産される、鶏卵・鶏肉・加工品は定期的な微生物検査をグループ内、ラボラトリー室にて行なっています。

鶏卵事業

洗卵、検卵後にロットごとの抜き取り検査を行ない、生卵の鮮度を確保する指標である「ハウユニット値」の定期的な検査を実施しています。



鶏肉事業

毎日の製造ロット毎に抜き取り検査を実施しています。



加工事業

○商品開発時

商品開発の段階で原料・初回製造品を検査して意図した商品に仕上がっているか、アレルギー物質の異常は無いか、微生物検査逸脱はないかのチェックをしています。

○生産しながら

全製造ロット毎に品質が維持されているかの確認のために、微生物検査と検食を実施し、合格したもののみを出荷しています。

※微生物基準は法律より少し厳しい基準を設定して管理しています。

※検食者については自社基準を設け、合格者のみが行なっています。

お申し出に関わる取組み

お客様よりいただきました商品に関する様々なお申し出につきましては、品質管理部が窓口になり、特に商品に問題があった場合は、危害性や拡散性の有無を評価し、原因の特定など迅速な調査と回答、その対策について取組みます。

お申し出につきましては近年では減少傾向となっていました。前年度に引き続き2022年度も少し増加となりました。新型コロナウイルス感染症拡大による内食傾向が高まったことから様々なお客様に商品を召しあがっていただく機会が増えたことと、お客様の商品に求める水準が高くなったこともその一因と考えられます。

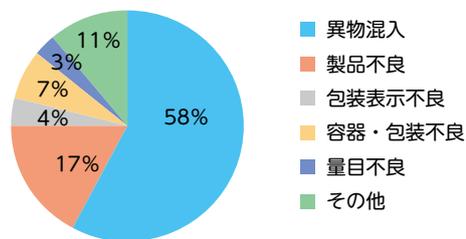
ホームページへのお問い合わせは、ご指摘いただく内容もありますが、マルイ農協グループで生産している南国元気鶏や鶏卵、加工食品について美味しいので購入したいが、どこで買えますか、また、生産している鶏の飼料や育て方についてのご質問も多くいただいています。お申し出につきましては貴重なご意見として今後の商品づくりに活用させていただいています。

お申し出に対する分析と対策につきましては工場と品質管理部で確認し、確実な対策となっているかの有効性の評価を行なっています。また月間と年間で集計を行ない前年度との比較や傾向を分析し、再発防止に努めています。

《お申し出推移 2017～2022年度グラフ》



《2022年度お申し出内容分析》

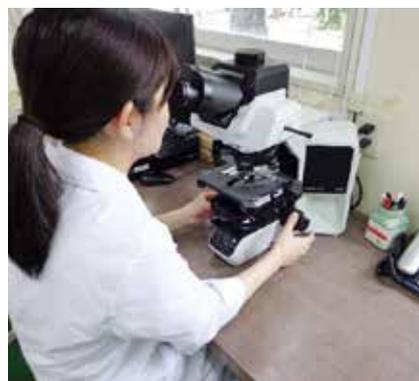


異物混入に関するお問い合わせ

マルイ農協ラボラトリー室にて実体顕微鏡や光学顕微鏡にて鑑定を行なっています。また呈色反応試験により鉄、有機溶剤、血液、でんぷん、セルロース等の含有確認とカタラーゼ活性試験（加熱を受けているかの確認）も行なっています。



現物品鑑定の様子



異味、異臭に関するお問い合わせ

鶏肉 IQF 商品や加工食品は工場にキープサンプルを保管しています。お問い合わせの内容に基づいて同一ロットキープサンプル品の検査や微生物検査を行ない、異常は無いか、拡散性は無いかについて確認しています。



インターネットやお電話に対するお問い合わせについて

ホームページやお電話のお問い合わせにつきましては、内容に応じて返信しています。“美味しかったので購入したい、どこで購入出来る？”“異物混入ご指摘”“使用しているアレルゲンは何？”“飼料について”“鶏について”など、お問い合わせ内容を部門ごとに分けることにより、より迅速にそして確実な返信ができるよう努めています。



アレルゲンに対する取組み

アレルゲンコンタミネーションに対する取組みとして、商品の検査と工程の拭取り検査を行ない、アレルゲン事故の未然防止に努めています。商品については全ての商品を年に1回以上の頻度で検査を実施しています。また加工工場で使用する計量器具や容器についてもアレルゲンごとの区分管理を行ない、コンタミネーションの防止に努めています。

※コンタミネーション
コンタミネーションとは、「混入」の意味



品質強化期間取組み

6月～8月を品質強化期間として、取組みを行なっています。この取組みは気温が上がり食中毒の発生しやすい時期に特別の取組みを行なうことにより、品質に関する従業員の意識の向上を図り、食中毒事故を未然に防止することが目的です。



▲社内に掲示のポスター

企画書、マニュアルについて

鶏卵、鶏肉製造履歴につきましては、全て明確になっています。鶏卵については鶏卵部門管理マニュアルを作成し、種鶏やひな、飼料、生産者、GPセンターについて規定しています。また毎年更新を行ない、飼養管理、生産管理の変化に柔軟に対応しています。

元気鶏についても“南国元気鶏”企画書を作成し、トレーサビリティやブロイラー生産処理体制の定義について規定し、毎年更新を行なっています。



フードディフェンス（食品防御）について

工場で働く従業員の安全と生活を守るため、またサプライヤーとしての責任を果たすために、フードディフェンスについての取組みを行なっています。

主な取組み内容につきましては、工場敷地の管理、工場内施設管理、安心カメラの設置、従業員につきましても、ご意見箱設置、従業員面談、慰安旅行や慰労会など、明るく楽しい職場環境となっています。



ご意見箱



慰安旅行



安心カメラ

※フードディフェンス

計画的な、または故意による意図的な攻撃（食品汚染等）から食品を守るための手段

ISO、HACCP 認証について

マルイ食品の工場では安心・安全な商品をお届けするために、鶏卵（GP センター）、鶏肉処理工場では HACCP 手法を取り入れた製造管理を行なっています。また鶏肉加工品や、加工品製造工場は、国際認証の ISO9001、ISO22000、FSSC22000 を取得しています。

ISO、FSSC の国際認証を取得し運用することで、顧客満足と食品安全に努めています。

- ・ マルイ食品出水 GP センター HACCP (2019年10月15日取得)
- ・ マルイ食品大口工場 ISO22000 (2022年11月11日取得)
- ・ マルイ食品調味料工場 ISO22000 (2011年4月26日取得)
- ・ マルイ食品高尾野工場 FSSC22000 (2017年5月15日取得)
- ・ マルイ食品松尾工場 ISO22000 (2017年9月25日取得)
- ・ マルイ食品しらぬい工場 ISO22000 (2017年10月12日取得)
- ・ マルイ食品米ノ津工場 ISO22000 (2021年7月14日取得)



私たちマルイ食品株式会社は、鶏の命を扱う企業として「生きものの命の大切さ」を働く仲間全員が認識し、「いのち」と「自然」が調和しつづける社会を目指して事業活動における環境への影響の予防と低減に取り組みます。

低炭素社会を目指して



環境啓発活動

従業員一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるよう、環境方針を全従業員に周知するとともにホームページ上に公表しています。

環境方針

1. 鶏卵・鶏肉の処理・販売や加工食品の開発・製造・販売に際し、資源・エネルギー（電気、ガス、重油等）の節約、再資源化、再資源利用等を推進し事業活動全体での省資源・省エネルギーに努めます。
2. 環境に関連する法規制や自治体との協定、地域や業界団体などとの同意事項を遵守するとともに、必要に応じて自主基準を定め遵守します。
3. 目標と達成の施策を明確にし、進捗状況を定期的に確認することにより、改善・強化を図ります。また、毎年経営者により環境方針、環境目的・目標の妥当性を確認します。
4. 環境問題に関して、組織のために働く全ての人々に対し教育を行ない、意識を高めるとともに会社だけでなく地域においても環境保全活動の取組みを促します。
5. 環境方針をホームページに掲載するとともに、各事業所に掲示します。

2011年10月1日
マルイ食品株式会社

省エネ委員会

環境方針をもとに、省エネ委員会を開催しています。委員会はエネルギー管理統括者を中心に各環境委員で構成され、事業本部ごとに推進委員会を組織し、省エネルギー、省資源化に努めています。また事業所ごとの省エネコンテストを行ない、従業員の意識の高揚を図っています。

※対前年度比 1%削減を目標に取り組みを行なっています。



再生可能エネルギーへの取り組み

環境への取り組みとして工場の屋根に「太陽光発電システム」を導入しています。無限でクリーンな太陽のエネルギーを活かし、脱炭素社会実現に向けた取り組みを行っています。

2021年度より、G Pセンターへ「自家消費型太陽光発電システム」の設置を行ないました。



食品残渣リサイクル～資源への循環

工場から日々発生する食品残渣、もともとは衛生的な材料です。これらは全て専門業者にお渡し、発酵させ「堆肥」へとリサイクルされ、新しい資源に生まれ変わります。また加工工場で毎日大量に使用されるフライヤーの油につきましても還元装置を導入し使用量の削減に努めています。





地域貢献について

工場見学について

マルイ食品の工場では地元の企業や食べ物についての理解を地域社会により深めてもらえるよう、小・中学生を中心に社会科見学の 일환として工場見学の受入れを実施しています。

※ 2022年度は、323名を受入れました。



わたしは、たまごがすきです。とくに、ゆでたまごや、めだまやきがいすきです。ちやからが入っていないかをていねいに、きかいなどを作って、調べていたなんて見学ではじめてしました。なので、これからも、かんしゃをこめて、食べたいです。😊 これからもがんばってください!!



お礼の手紙

お仕事は、楽しいですか。前、来たときマルイのことを何でも教えてくれてありがとうございました。マルイ工場ではたらいっている人は、けっこういるので、たまごのことは何でも知っていますから、いいなと思いました。これからも仕事をがんばってください。



いろいろなことを教えてくれてありがとうございました。マルイ食品にけんがくに行ったおかげで一日に二こ以上は、たまごを食べていい。ということやたまごは農家から来ている。ということがわかりました。ありがとうございました。



職場体験学習の受入れについて

マルイ食品の加工工場では中学校からの職場体験学習を受入れています。受入れ人数は多くはありませんが、働くことの意義や社会のルールを学ぶ機会として、また地元企業の認知や理解を深めてもらうために、受入れを行なっています。



海外実習生の受入れ

食鳥処理場や加工工場ではベトナム、ウズベキスタンからの外国人技能実習生の受入れを行なっています。専用の宿舎を完備し、工場のルールから衛生管理、日本語をしっかりと学んだ後に、各工場の実務の教育を行なっています。工場の慰安旅行やイベントにも参加してもらい、日本の文化や日本を好きになってもらえるよう交流を深める工夫をしています。

技能実習生受入れ数
(2023年2月末現在)

野田工場	78名
野田第2工場	12名
高尾野工場	8名
米ノ津工場	10名
松尾工場	20名
しらぬい工場	10名
合計	138名



たまご学習会

マルイ農協グループでは“たまご”についての学習会を地元の小学生にむけて開催しています。学習会では、たまごの赤玉と白玉の違いや、構造やエサについて、農場からG Pセンターで処理されるまでの流れについてなど児童たちに分かりやすく説明しました。



障害者雇用について

マルイ食品では障害のある人が、その能力と適性に応じて一般の人と同様に働ける社会の実現を目指して雇用を促進しています。2020年度には、その功績が認められ、「障害者雇用優良事業所機構理事長表彰」を受けました。

マルイふるさと文庫活動報告

地域貢献事業として事業所のある近隣の全ての小学校へ、合わせて6,000冊の本を贈る取り組みを2020年度より企画しています。2022年度は小学校の9校に合わせて781冊の本を贈りました。



健全な職場環境の維持・推進について

保育所の開設について

マルイグループでは企業主導型保育事業として“マルイぴよぴよ保育園”を2019年5月に開園しています。マルイ食品の従業員のお子様や地域のお子様についてもお預かりし、働くパパ、ママの就労支援を行なっています。



コンプライアンス体制と委員会の開催について

当社はコンプライアンスを経営の重要課題の一つとして位置づけ法令等の遵守を重視した経営を行っており、お客様及び地域社会からの信頼を得るために全従業員がコンプライアンスの実践に取り組んでいます。

コンプライアンス委員会には外部委員も招集し、自主的なコンプライアンス活動を実践するために事業部ごとに取組みを行ない、年に2回コンプライアンス委員会を開催し、報告を行なっています。

鶏魂祭

私たちの事業は鶏によって成り立っています。

鶏の命を扱う企業として鶏に感謝し、その供養のために毎年秋に鶏魂祭を行なっています。鶏魂祭にはマルイグループ代表をはじめ多くの関係者が参列しますが、2022年度は新型コロナウイルスの影響もあり、関係者のみの開催となりました。



行動指針

私たちマルイ食品株式会社は、高い倫理観に基づいた誠実な企業行動、また、役員・従業員一人ひとりが企業人として高い倫理観を持ち、行動することを実行してまいります。

マルイのSDGsへの取り組み



SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。マルイ食品もSDGsの持続可能な目標達成のため取り組みを行なっています。

飢餓のない世界を目指して



レッドカップキャンペーンの取り組み



マルイ食品では「世界の恵まれない子供たちのために何か支援できることはないか」と考え2013年度より国連WFP協会（国際連合世界食糧計画 WFP 協会）が主催する学校給食支援「レッドカップキャンペーン」に参画しています。

今後も引き続き参画し、一人でも多くの子供たちに笑顔を届けられるよう応援してまいります。

2022年度の寄付金
1,986,025円



2013年4月～2023年3月までの
寄付金総額

24,599,723円



©Mayumi Rui



会社概要

名 称 マルイ食品株式会社
所在地 〒899-0297 鹿児島県出水市平和町 225 番地
社 長 梶 操
設 立 1975 年 10 月 1 日
資 本 金 449,500 千円
従業員数 1,277 名 (2023 年 2 月末)
年間売上 約 354 億円 (2022 年度)
鶏卵事業部 120 億円
鶏肉事業部 136 億円
加工事業部 98 億円
事業所 マルイ食品出水 GP センター / マルイ食品野田工場
マルイ食品野田第 2 工場 / マルイ食品調味料工場
マルイ食品大口工場 / マルイ食品米ノ津工場
マルイ食品松尾工場 / マルイ食品高尾野工場
マルイ食品しらぬい工場 / マルイ食品冷蔵倉庫
営業所 マルイ食品出水営業所 / マルイ食品鹿児島営業所
マルイ食品熊本営業所 / マルイ食品宮崎営業所
マルイ食品北摂営業所 / マルイ食品京都営業所
マルイ食品加古川営業所 / マルイ食品堺営業所
マルイ食品東日本加工食品販売課
マルイ食品中部近畿加工食品販売課
マルイ食品西日本加工食品販売課





マルイ農協グループ[®]

マルイ農業協同組合

〒899-0297 鹿児島県出水市平和町225番地
TEL 0996-63-0101 FAX 0996-63-7662

マルイ食品株式会社

〒899-0297 鹿児島県出水市平和町225番地
TEL 0996-63-1111 FAX 0996-64-1234

マルイファーム株式会社

〒899-0217 鹿児島県出水市平和町264-1
TEL 0996-63-0425 FAX 0996-63-0040

マルイ運輸株式会社

〒899-0121 鹿児島県出水市米ノ津町56-69
TEL 0996-67-3911 FAX 0996-67-3984

マルイ飼料株式会社

〒899-0202 鹿児島県出水市昭和町59-5
TEL 0996-62-2434 FAX 0996-63-2363

マルイ事業協同組合

〒899-0297 鹿児島県出水市平和町225番地
TEL 0996-63-0101 FAX 0996-63-7662

QRコードよりマルイ農協グループの
ホームページをご覧ください。

<https://www.marui.or.jp>

